

小音1

2022年度 芸術系教科担当教員等 全国研修会 テーマ別研修の内容
小学校音楽科 分科会 【実施日】令和4年12月15日

(別紙3-1)

| | | | | |
|------|--------------------------------------|-----|-------|-----|
| 担当大学 | 東京藝術大学 | | | |
| 講 師 | 杉山陽介（東京藝術大学特任助教） 市川恵（東京藝術大学特任准教授） | | | |
| 対 象 | 小学校音楽科担当教員等 | 定 員 | 参集 | 20名 |
| | | | オンライン | 40名 |

| ＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容 | | | |
|--------------------|--|------------------------------|---------------|
| テーマ | ICTを活用した音楽科授業：「音楽づくり」と「鑑賞」を中心に | | |
| 研修内容の概要 | 新型コロナウイルスの影響で、従来通りの方法では歌唱や器楽の実践が厳しく、学校現場では様々な試行錯誤が続いている。また、1人1台端末の導入が進んでいる昨今、ICTをより効果的に活用した学習環境づくりも重要な課題である。本研修では、ICTを活用した「音楽づくり」と「鑑賞」の学習の可能性や課題を探究するとともに、講師による具体的な実践提案を体験することを通し、学習改善、指導改善に結びつく視点や方法を学ぶ。「音楽づくり」では、macOS/iOS用の音楽制作ソフトウェア「GarageBand」を使用した個人及び協働での創作を体験する。 | | |
| | [学習指導要領との関連] 小学校音楽科：「A表現」（3）ア、イ、ウ、「B鑑賞」（1）ア、イ、〔共通事項〕 | | |
| 内容と方法 | 本研修では、講師の実践提案によるICTを活用した「音楽づくり」及び「鑑賞」の指導法を受講生一人一人が経験し、それを授業にどのように生かしていくかについて学んでいく。具体的には、まず「ICTを活用した音楽づくり①」において、macOS/iOS用の音楽制作ソフトウェア「GarageBand」の基本操作を確認した上で、個人での創作及び発表を行う。その際、創作物の記録方法や子どもへの具体的な助言等、実際の指導場面を想定した授業改善の視点を考察していく。そして、「ICTを活用した音楽づくり②」では①の応用編として協働的な創作を体験する。最後に、講師によるICTを活用した鑑賞活動の提案や実践事例の紹介から、音楽授業におけるICT活用の可能性と課題について理解を深め、各学校の実態に応じたICT活用のあり方を考察していく。 | | |
| 到達目標 | 1 ICTを活用した実践に関する知識や技能を得たり生かしたりしながら、各学校の実態に応じた活動を工夫することができる。 2 授業改善に向けて、「音楽づくり」及び「鑑賞」の指導法や学習内容に生かせる視点と方法を考察することができる。 | | |
| スケジュール | 09:30～11:45 | 開講式，全体研修，理論研修（教科別：文化庁による進行） | オンライン配信 |
| | 13:00～13:15 | オリエンテーション，音楽科におけるICT活用の現状と課題 | リアルタイム |
| | 13:15～14:30 | ICTを活用した音楽づくり①：個人での創作及び発表 | リアルタイム／各自作業 |
| | 14:30～14:45 | 休憩 | |
| | 14:45～15:15 | ICTを活用した音楽づくり②：協働での創作及び発表 | リアルタイム／協働での作業 |
| | 15:15～15:30 | ICTを活用した鑑賞活動の提案 | リアルタイム |
| | 15:30～15:50 | ICTを活用した実践事例紹介，今後の展望と課題 | リアルタイム |
| | 15:50～16:00 | 質疑応答 | リアルタイム |
| | 16:20～16:40 | 全体講評（教科別：文化庁による進行） | オンライン配信 |
| 教材・持ち物等 | オンライン参加者：「GarageBand」を使用できる端末（MacBook，iPad，iPhone），イヤホン（任意） 対面参加者：イヤホン（任意） ※端末は大学にて用意いたします。 | | |
| 特記事項 | ○事前・事後課題の有無： 事前にアンケート実施を予定 ○資料の配布方法： 研修会専用ホームページよりダウンロード ○受講する上での環境条件等：オンライン参加の方は，極力，カメラをオンの状態にてご参加いただきますようお願いいたします。「GarageBand」を初めてご使用いただく方も安心してご参加ください。 | | |

小音2

2022年度 芸術系教科担当教員等 全国研修会 テーマ別研修の内容
小学校音楽科 分科会 【実施日】令和4年12月15日

| | | | | |
|------|---|-----|-------|-----|
| 担当大学 | エリザベト音楽大学 | | | |
| 講 師 | 寺内大輔（広島大学准教授） 三宅悠太（作曲家・エリザベト音楽大学非常勤講師） | | | |
| 対 象 | 小学校音楽科担当教員等 | 定 員 | 参集 | 0名 |
| | | | オンライン | 40名 |

| ＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容 | | | |
|--------------------|--|-----------------------------|---------|
| テーマ | 声の表現を探究する活動 | | |
| 研修内容の概要 | 人それぞれ顔が違うように、声も人それぞれ違います。同じ人の声でも、その出し方によって様々な表現ができます。声の表現を探究する活動は、自分（あるいは自分たち）らしい音楽をつくり出すための重要な活動になります。本研修では声を使った音遊びや音楽づくり・世界の様々な国や地域の音楽や現代音楽における声の表現、歌唱・合唱指導における要点などのトピックを取り上げます。 | | |
| | [学習指導要領との関連] 小学校音楽科：A表現(1)歌唱，ア、イ、ウ(3)音楽づくり，ア、イ、ウ　B鑑賞ア、イ　〔共通事項〕 | | |
| 内容と方法 | 学習指導要領をふまえ，教科書で紹介されている活動を適宜紹介しつつ，オンラインでできるワークをいくつか体験していただきます。受講される皆様がそれぞれの現場で活用していただけるよう，児童の実態に応じたアレンジについても取り上げます。 | | |
| 到達目標 | 担当している児童の実態に応じた「声の表現を探究する活動」を，自らデザインすることができる。 | | |
| スケジュール | 09:30～11:45 | 開講式、全体研修、理論研修（教科別：文化庁による進行） | オンライン配信 |
| | 13:00～13:05 | 研修前の操作確認・オリエンテーション | オンライン |
| | 13:05～14:00 | 声を使った音遊びや音楽づくり | オンライン |
| | 14:00～14:10 | 休憩 | |
| | 14:10～14:50 | 世界の様々な国や地域の音楽や現代音楽における声の表現 | オンライン |
| | 14:50～15:00 | 休憩 | |
| | 15:00～15:00 | 歌唱・合唱指導のヒント | オンライン |
| | 15:40～15:50 | 質問とまとめ | オンライン |
| | 16:20～16:40 | 全体講評（教科別：文化庁による進行） | オンライン配信 |
| 教材・持ち物等 | 特にありません。 | | |
| 特記事項 | ○事前・事後課題の有無：無 ○資料の配布方法：　研修会専用ホームページよりダウンロード ○受講する上での環境条件等：マイク・カメラのついたIT機器（zoom利用）。声を出すワークがありますので，周囲の方にご迷惑のかからない環境で受講してください。 | | |

小図1

2022年度 芸術系教科担当教員等 全国研修会 テーマ別研修の内容

小学校図画工作科 分科会 【実施日】令和4年12月15日

| | | | | |
|------|--|-----|-------|-----|
| 担当大学 | 東京造形大学 | | | |
| 講 師 | 前半(実技):酒匂克之准教授 石賀直之教授 後半(理論):石賀直之教授 酒匂克之准教授 | | | |
| 対 象 | 小学校図画工作科担当教員等 | 定 員 | 参集 | 15名 |
| | | | オンライン | 0名 |

| ＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容 | | | | |
|--------------------|--|-----------------------------|--|---------|
| テーマ | 「場の発想、場の変容、場の創出」考え方がわかる！ 場所や空間を生かした高学年の造形遊びの指導とICTの活用 | | | |
| 研修内容の概要 | 自分自身を取り囲む環境とは一体どのようなものか、造形的な視点での「場所や空間の意味」とその価値に気づくための考え方、環境を生かした造形活動を通して学べることやその学習の流れについて、事例を見ながら理解していきます。その後、小グループを作り場所や空間を生かした造形活動を行います。実際の活動を通して、活動の過程で生まれる発想や、考えや思いの方向性の再検討といった高学年の造形遊びに見られる学習のあり方について、講師と対話をしながらさらに理解を深めていきます。その後、受講者同士のグループディスカッションにおいて高学年の造形遊びの具体的な題材のあり方について議論していきます。なかなか取り上げられる機会が少ない場所や空間を生かした造形遊びの本質的な考え方についてより深く学んでいきます。また、高学年の造形遊びにおけるICTの効果的な活用の仕方についても具体的事例をもとに体験していきます。 | | | |
| | [学習指導要領との関連] 小学校図画工作科：第5学年及び第6学年　A表現(1)ア(2)ア　B鑑賞(1)ア　〔共通事項〕(1)アイ | | | |
| 内容と方法 | 前半 実技講習　酒匂克之准教授　石賀直之教授 1）場所や空間の概念やその特徴の気付き方、場や空間の変容の意味や価値、環境を生かした造形活動におけるICTの具体的な活用方法について理解する。 2）大学内の様々な空間を生かして活動を行う。 3）互いの活動を見ながら振り返りを行う。 後半 理論講習　石賀直之教授　酒匂克之准教授 1）前半の講習と学習指導要領の関連について理解する。 2）高学年の造形遊びの具体的な題材のあり方についてグループディスカッションを行う | | | |
| 到達目標 | ○造形遊びにおける場所や空間の意味とその価値に気づくための考え方を理解する。 ○環境を生かした造形活動を通して学べることやその学習の流れについて理解する。 ○活動の過程で生まれる発想や、考えや思いの方向性の再検討といった高学年の造形遊びに見られる学習のあり方を理解し、その指導法について学ぶ。 ○高学年の造形遊びにおけるICTの効果的な活用の仕方について理解する。 | | | |
| スケジュール | 09:30～11:45 | 開講式、全体研修、理論研修（教科別：文化庁による進行） | | オンライン配信 |
| | 11:45～12:00 | 講師紹介　会場の使用について | | リアルタイム |
| | 12:00～13:00 | 昼食 | | |
| | 13:00～13:30 | オリエンテーション　活動紹介 | | リアルタイム |
| | 13:30～15:30 | 実技（途中10分間の休憩） | | |
| | 15:30～16:00 | 学習指導要領から見る実技と造形遊びとの関連 | | |
| | 16:00～16:20 | 休憩 | | |
| | 16:20～16:40 | 全体講評（教科別：文化庁による進行） | | オンライン配信 |
| 教材・持ち物等 | 特になし。教材及び材料は当日配布します。 | | | |
| 特記事項 | ○事前・事後課題の有無：　特になし ○資料の配布方法：　当日配布（大学構内に本講座の学生による活動事例が展示してあります） ○受講する上での環境条件等：学食、学内コンビニエンスストア、学食スペース及び学内カフェテリア飲食スペース利用可。学外近隣には飲食店がありませんのでご注意ください。 | | | |

小図2

2022年度 芸術系教科担当教員等 全国研修会 テーマ別研修の内容

小学校図画工作科 分科会 【実施日】令和4年12月15日

| | | | | |
|------|--------------------|-----|-------|-----|
| 担当大学 | 東京造形大学 | | | |
| 講 師 | 首藤幹夫 教授 小林貴史 教授 | | | |
| 対 象 | 小学校図画工作科担当教員等 | 定 員 | 参集 | 20名 |
| | | | オンライン | 0名 |

| ＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容 | | | | |
|--------------------|---|-----------------------------|--|---------|
| テーマ | あかりがつくる造形活動ー伝統芸能としての影絵から主体的・対話的で深い学びのある授業づくりへー | | | |
| 研修内容の概要 | 前半は、はじめに伝統芸能として八王子にある影絵（写し絵）の上演を鑑賞し、あかりによる造形表現の多様性を味わうとともに、影絵の制作と投影から表現と鑑賞の関連を図った活動の可能性を探る。後半は前半の演習をもとに、学校現場の具体的な実践へとつなげることをめざして、グループごとの授業構想と発表を行う。 | | | |
| | {学習指導要領との関連} 小学校図画工作科：A表現（１）イ、（２）イ　B鑑賞（１）ア　〔共通事項〕（１）ア、イ | | | |
| 内容と方法 | 研修① ・影絵の上演を鑑賞し、闇の中であかりが生み出す表現の美しさを味わうとともに影絵の仕組みを理解する。 ・影絵の効果を想像しながら種板にはめる絵をプラスチック板に描いて制作する。 ・制作した絵を風呂（プロジェクター）を使って投影し、操作を工夫しながら互いに鑑賞する。 研修② ・影絵の体験をもとに小学校図画工作科において主体的・対話的で深い学びを大切にした具体的な活動をグループごとに検討し、授業を構想する。 ・授業構想を発表し、全体で指導のポイントを共有する。 | | | |
| 到達目標 | 表現と鑑賞の往還を可能とする種板にはめる絵の制作と風呂を使った影絵の体験をもとに、図画工作科における授業改善に向けての議論や発表を通して、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりへの理解と実践へと繋げる。 | | | |
| スケジュール | 09:30～11:45 | 開講式、全体研修、理論研修（教科別：文化庁による進行） | | オンライン配信 |
| | 11:45～13:00 | 講師紹介・会場の案内 | | |
| | 12:00～13:00 | 昼食 | | |
| | 13:00～13:20 | 影絵の実演の鑑賞 | | |
| | 13:20～14:00 | 種板にはめる絵の制作 | | |
| | 14:00～14:30 | 風呂を使って制作した絵の投影 | | |
| | 14:30～14:40 | 休憩 | | |
| | 14:40～15:30 | グループごとに影絵をもとにした授業づくりの検討 | | |
| | 15:30～16:00 | 授業構想の発表・ふりかえり | | |
| | 16:00～16:20 | 休憩・会場移動 | | |
| | 16:20～16:40 | 全体講評（教科別：文化庁による進行） | | オンライン配信 |
| 教材・持ち物等 | ・『小学校学習指導要領解説　図画工作編』 ・筆記用具 | | | |
| 特記事項 | ○事前・事後課題の有無：　なし ○資料の配布方法：　当日配布 ○受講する上での環境条件等：　昼食には学食、学内コンビニも利用できます。（学外近隣には飲食店がありませんのでご注意ください。） | | | |

中高音1

2022年度 芸術系教科担当教員等 全国研修会 テーマ別研修の内容
中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽） 分科会 【実施日】令和4年12月15日

| | | | | |
|------|--|-----|-------|-----|
| 担当大学 | 東京藝術大学 | | | |
| 講 師 | 千住 明（作曲家、東京藝術大学客員教授） 佐野 靖（東京藝術大学副学長／教授） | | | |
| 対 象 | 中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）担当教員等 | 定 員 | 参集 | 30名 |
| | | | オンライン | 30名 |

| ＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容 | | | |
|--------------------|---|-----------------------------|---------|
| テーマ | 生徒の興味・関心を高める鑑賞指導の工夫　～「音楽表現の共通性や固有性」に着目して～ | | |
| 研修内容の概要 | 本研修では，生徒の身近な音楽から出発する鑑賞指導を提案する。そうしたアプローチで生徒の興味・関心を高めるためには，教える側も，若者たちが身近に感じている音楽文化の今日の状況，メディア等による多様な仕掛けなどについてある程度は知っておく必要がある。クラシック音楽にもポピュラー音楽にも精通する講師からの情報提供を受けて，教員自身が学び手となって「音楽的な見方・考え方」を大いに働かせる研修としたい。そして，具体的な曲の分析や解釈を通して，ジャンルをこえた音楽表現の共通性や固有性について探究するとともに，自分や社会にとっての音楽の意味や役割，価値などについて捉え直す協働的な学びの場とする。 | | |
| | [学習指導要領との関連] 中学校音楽科：「B鑑賞」（1）ア(イ)(ウ)，イ(イ)，〔共通事項〕 高等学校芸術科（音楽）：音楽ⅠⅡⅢ：「B鑑賞」(1)ア(イ)(ウ)，イ(イ)，〔共通事項〕 | | |
| 内容と方法 | 本研修は，音楽文化に関する情報提供や具体的な音楽表現の分析など講師側から働きかける部分と，受講生が自ら感性を働かせ，他者と協働しながら音楽表現の共通性や固有性について探究したり，音楽の社会における意味や役割などについて考えたりする部分から構成される。また，鑑賞活動では，多様な感じ方や価値観などを互いに認め合うことが大切である。本研修においても，講師と受講生，受講生同士が活発にコミュニケーションできる時間と場を設定する。協働的な学びを体験し，その楽しさを実感することが，各学校の実態に応じた鑑賞指導の充実につながると考える。さらに，教材選択の幅を広げるために，限られた時間の中でもできるだけ多様なジャンルの音楽を紹介できるよう提示の仕方を工夫する。 | | |
| 到達目標 | 1　音楽文化の状況，音楽表現の共通性や固有性，社会における音楽の意味や役割などに関する思考を深め，各学校の実態に応じた鑑賞活動を工夫することができる。 2　授業改善に向けて，生徒の興味・関心を高める「鑑賞」の指導法や学習内容に生かせる視点と方法を考察することができる。 | | |
| スケジュール | 09:30～11:45 | 開講式，全体研修，理論研修（教科別：文化庁による進行） | オンライン配信 |
| | 13:00～13:15 | オリエンテーション，鑑賞指導の現状と課題 | リアルタイム |
| | 13:15～14:00 | 今日的社会における音楽文化の状況 | リアルタイム |
| | 14:00～14:25 | グループワークと質疑応答① | リアルタイム |
| | 14:25～14:40 | 休憩 | |
| | 14:40～15:25 | 音楽表現の共通性と固有性 | リアルタイム |
| | 15:25～15:50 | グループワークと質疑応答② | リアルタイム |
| | 15:50～16:00 | 総括：今後の展望と課題 | リアルタイム |
| | 16:20～16:40 | 全体講評（教科別：文化庁による進行） | オンライン配信 |
| 教材・持ち物等 | 特になし | | |
| 特記事項 | ○資料の配布方法：　研修会専用ホームページよりダウンロード ○受講する上での環境条件等：オンライン参加の方は，極力，カメラをオンの状態にてご参加いただきますようお願いいたします。 | | |

中高音 2

2022年度 芸術系教科担当教員等 全国研修会 テーマ別研修の内容
中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽） 分科会 【実施日】令和4年12月15日

| | | | | |
|------|--|-----|-------|-----|
| 担当大学 | 京都市立芸術大学 | | | |
| 講 師 | 山口友寛（京都市立芸術大学音楽学部 非常勤講師） 清水久莉子（京都市立芸術大学音楽学部 特任講師） | | | |
| 対 象 | 中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）担当教員等 | 定 員 | 参集 | 30名 |
| | | | オンライン | 0名 |

| ＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容 | | | | |
|--------------------|--|---------------------------------|--|-----------|
| テーマ | 創作の活動におけるICT活用 | | | |
| 研修内容の概要 | 生徒の創作表現の創意工夫を促す、ICTを活用した音楽制作のワークショップ。iPadに付属する音楽制作アプリ（Garage Band）を用いて、反復、変化、対照、エフェクトなどの手法を活用し、音楽作品の構築を通して、創作領域の指導に活用することのできる、ICTを用いた「創作」を体験する。 | | | |
| | [学習指導要領との関連] 中学校音楽科：第1学年、第2学年及び第3学年「A表現」（3）ア、イ(ア)(イ)、ウ、〔共通事項〕 高等学校芸術科（音楽）：音楽Ⅰ、Ⅱ「A表現」（3）ア、イ、ウ(ア)(イ)、〔共通事項〕 音楽Ⅲ「A表現」（3）ア、イ、ウ、〔共通事項〕 | | | |
| 内容と方法 | <p>本研修は以下の内容の音楽制作を皆さんと一緒に実践しながら進めていくワークショップ形式の研修となります。</p> <p>① ICTを用いた音楽制作方法についての解説 ② iPad音楽制作アプリ「Garage Band」と、その内部機能「LIVE LOOPS」の基本操作についての解説 ③④ 音楽制作の実践 ⑤ エフェクト加工による音遊び ⑥ 完成品として1つの音声ファイルにする。またその活用方法の紹介 ⑦ 参加者の質問と情報交換</p> <p>①では、創作の授業に用いることのできるICT機器の活用方法について概説します。音楽制作アプリの機能を活用することで、創作の可能性を広げます。②では、ICT機器に苦手意識をお持ちの方を対象に、基本的な操作方法と本研修で用いる機能について1からご案内します。③④では、「LIVE LOOPS」機能を用いた音楽制作方法の解説をしつつ、実際に音楽制作に挑戦をしていただきます。⑤では、制作した音楽にエフェクト加工を加え、ちょっとした音遊びの紹介と、その実践を一緒に行っていきます。⑥では、完成した作品を1つの音声ファイル化し、せっかく作成した音楽の活用方法について数例ご紹介します。</p> | | | |
| 到達目標 | iPad(Garage Band)を使用した音楽創作の授業組み立てと実践に取り組めるようになる。 | | | |
| スケジュール | 09:30～11:45 | 開講式、全体研修、理論研修（教科別：文化庁による進行） | | オンライン配信 |
| | 13:00～13:25 | 研修前の操作確認・オリエンテーション・研修内容の概要説明① | | 対面解説 |
| | 13:25～13:45 | GarageBandと「LIVE LOOPS」機能の基本操作② | | 対面解説 |
| | 13:45～14:40 | 制作実践：「音楽素材」の組み合わせ方について③ | | 対面解説＋各自作業 |
| | 14:40～14:50 | 休憩 | | |
| | 14:50～15:10 | 制作実践：制作作品のレコーディング④ | | 対面解説＋各自作業 |
| | 15:10～15:40 | 制作実践：エフェクト加工⑤ | | 対面解説＋各自作業 |
| | 15:40～15:50 | 1つの音声ファイルとして完成品の書き出し⑥ | | 対面解説＋各自作業 |
| | 15:50～16:00 | 参加者からの質問と情報交換⑦ | | リアルタイム |
| | 16:00～16:20 | 休憩・準備 | | |
| | 16:20～16:40 | 全体講評（教科別：文化庁による進行） | | オンライン配信 |
| 教材・持ち物等 | iPad(miniやAir、Proでも可)、イヤホン | | | |
| 特記事項 | ○事前・事後課題の有無： 無し ○資料の配布方法： 研修会専用ホームページよりダウンロード ○受講する上での環境条件等： iPadには、GarageBandの最新バージョン(2.3.13)と、GarageBand上で利用できる全てのサウンドライブラリを事前にインストールしておくこと | | | |

中高美1

2022年度 芸術系教科担当教員等 全国研修会 テーマ別研修の内容
中学校美術科・高等学校芸術科（美術） 分科会 【実施日】令和4年12月15日

| | | | | |
|------|---|-----|-------|-----|
| 担当大学 | 東京造形大学 | | | |
| 講 師 | 中林鉄太郎 教授（インダストリアルデザイン専攻領域） 山田猛 教授（教職課程室） | | | |
| 対 象 | 中学校美術科・高等学校芸術科（美術）担当教員等 | 定 員 | 参集 | 20名 |
| | | | オンライン | 0名 |

| ＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容 | | | |
|--------------------|---|-----------------------------|----------|
| テーマ | 言語活動からイメージや形へ ～デザインの思考プロセスの深化～ | | |
| 研修内容の概要 | 前半は、インダストリアルデザイン専攻の教授による言語活動から発想や構想を深める様々な手立てについてのレクチャー及び演習を通し、言語から形やイメージへの具現化に繋げる新たな視点の獲得を目指す。後半は校種に分かれ、前半の学びを具体的に学校現場の発想や構想の授業実践のために、教職課程の教授によるレクチャー、グループディスカッションやワークを行う。 | | |
| | {学習指導要領との関連} 中学校美術科：A表現(1)イ(ア)(イ)(ウ)B鑑賞(1)ア(イ)イ(ア)共通事項（1）ア イ 高等学校芸術科（美術）：A表現(2)ア(ア)(イ) B鑑賞(1)ア(イ)イ(ア)共通事項（1）ア イ | | |
| 内容と方法 | ・前半講師（中林鉄太郎 教授） 言語活動を中心に、使う目的や機能を考え、デザインに表現する活動の発想から構想に繋げていくプロセスの演習を行う。個人やグループ活動の往還により、発想や構想の学習指導についての視点を磨く。 ・後半講師（山田猛 教授） 前半の学びを実際の授業に応用するために、レクチャーと演習を通して、発想や構想の学習について深く考察する。目的や条件などを基に、言葉で考えを整理することで、主題を生み出したり、形や色彩などを試行錯誤することにより構想を深めたりするなど、発想や構想の学習のプロセスを考える。 | | |
| 到達目標 | 相手や内容、社会との関わりなどから言語活動を通して主題を生み出し、機能や効果と美しさなどとの調和を総合的に考え、発想から形やイメージへと導き構想へと繋がるプロセスについて、新たな視点を持つ。 | | |
| スケジュール | 09:30～11:45 | 開講式、全体研修、理論研修（教科別：文化庁による進行） | オンライン配信 |
| | 11:45～12:00 | 講師紹介・会場の使用について | 対面リアルタイム |
| | 13:00～13:05 | オリエンテーション等 | 対面リアルタイム |
| | 13:05～13:35 | レクチャー① 言語活動を通した発想から構想へ（仮） | レクチャー受講 |
| | 13:35～13:55 | 演習① 言語活動から発想へ | 各自作業 |
| | 13:55～14:15 | 演習② 発想から構想へのプロセス | 各自・グループ |
| | 14:15～14:30 | 演習③ 発想から構想のバランス・学習評価 | グループワーク |
| | 14:30～14:45 | レクチャー② 言語活動・発想や構想の教育現場への応用 | レクチャー受講 |
| | 14:45～15:40 | 演習④ 発想から構想へのプロセス | グループワーク |
| | 15:40～16:00 | 全体共有 | グループ発表 |
| | 16:20～16:40 | 全体講評（教科別：文化庁による進行） | オンライン配信 |
| 教材・持ち物等 | 筆記用具 | | |
| 特記事項 | ○事前・事後課題の有無： 無 ○資料の配布方法： 研修会当日配布 ○受講する上での環境条件等：学食、学内コンビニエンスストア、学食スペース及び学内カフェテリア飲食スペース利用可。学外近隣には飲食店がありませんのでご注意ください。 | | |

中高美2

2022年度 芸術系教科担当教員等 全国研修会 テーマ別研修の内容
中学校美術科・高等学校芸術科（美術） 分科会 【実施日】 令和4年12月15日

| | | | | |
|------|--|-----|-------|-----|
| 担当大学 | 武蔵野美術大学 | | | |
| 講 師 | 春原史寛 武蔵野美術大学芸術文化学科准教授 三澤一実 武蔵野美術大学教職課程研究室教授 | | | |
| 対 象 | 中学校美術科・高等学校芸術科（美術）担当教員等 | 定 員 | 参集 | 0名 |
| | | | オンライン | 40名 |

| ＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容 | | | | |
|--------------------|--|------------------------------|--|---------|
| テーマ | ポップカルチャー作品の鑑賞活動における可能性 | | | |
| 研修内容の概要 | 中高生が関心を持つポップカルチャー作品（イラストやアニメなど）の鑑賞活動については、今日の生徒が関心を持って臨める新しい題材と考える。今回、造形的な視点を豊かにするために必要な知識として〔共通事項〕が位置づけられたが、ポップカルチャー作品の鑑賞においても、生徒が鑑賞の能力を発揮し、〔共通事項〕に関する学びも主体的に深めていける題材と考える。生徒が関心を持つ現代的な題材を、どのような視点で鑑賞したらよいか、ワークショップなどを取り入れながら題材開発について学ぶ。 | | | |
| | {学習指導要領との関連] 中学校美術科：B鑑賞（1）ア(ア)(イ),イ(イ)〔共通事項〕(1)アイ 高等学校芸術科（美術）：B鑑賞（1）ア(ア)(イ)(ウ),イ(イ)〔共通事項〕（1）アイ 知識…鑑賞活動を通して作品に現れた造形的な視点を実感的に学ぶ。 思考力、判断力、表現力等…作品鑑賞を通して、造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や、表現の工夫などについて考えたり、日本のアニメ等、文化として認められつつあるポップカルチャーを考えたりすることで、見方や考え方を広げ深めることに関連する。 | | | |
| 内容と方法 | デジタル・イラストを中心にアニメ作品にも言及しながら、ポップカルチャー作品の社会的位置づけ、美術との関係性、鑑賞の意義と観点、具体的な方法について提案・解説する。ワークショップでは、実際にイラスト作品をデジタル描画の特性にも触れながら、多様な視点から鑑賞し、鑑賞の方法を発想することで題材化へとつなげる。以上により、SNS等を介して生徒の生活空間にあふれるポップカルチャー作品を、生徒が鑑賞対象を自ら選択して主体的な鑑賞が行える可能性を持つ、新たな鑑賞対象として位置づける。 まとめでは、三澤講師が春原講師の講演とワークショップを受けて、学習指導要領上の位置づけを確認するとともに、ポップカルチャーの鑑賞における資質・能力の育みを受講者とともに確認していく。 | | | |
| 到達目標 | ・ポップカルチャー作品における造形的な視点を理解し、作品が持つ鑑賞題材としての魅力を感じ取ることができる。 ・ポップカルチャー作品を題材として、鑑賞題材の開発ができるようになる。 | | | |
| スケジュール | 09:30～11:45 | 開講式、全体研修、理論研修（教科別：文化庁による進行） | | オンライン配信 |
| | 13:00～13:10 | 研修前の操作確認・オリエンテーション(三澤) | | オンライン配信 |
| | 13:10～14:05 | 講義：「ポップカルチャー作品鑑賞の意義と方法」（春原） | | オンライン配信 |
| | 14:05～14:20 | 動画：「クリエイターによる鑑賞のポイント解説」 | | 動画視聴 |
| | 14:20～14:30 | 休憩 | | |
| | 14:30～15:10 | 演習：鑑賞ワークショップおよびグループワーク | | 各自作業 |
| | 15:10～15:30 | 演習：グループワークの発表・講評 | | グループワーク |
| | 15:30～16:00 | 講義：まとめ「学習指導要領上の位置づけについて」（三澤） | | |
| | 16:20～16:40 | 全体講評（教科別：文化庁による進行） | | オンライン配信 |
| 教材・持ち物等 | 特になし | | | |
| 特記事項 | ○事前・事後課題の有無： 事前に意識調査アンケート課題を予定。事後課題なし。 ○資料の配布方法： 研修会専用ホームページよりダウンロード ○受講する上での環境条件等： 特になし。 | | | |

中高美3

2022年度 芸術系教科担当教員等 全国研修会 テーマ別研修の内容
中学校美術科・高等学校芸術科（美術） 分科会 【実施日】令和4年12月15日

| | | | | |
|------|--|-----|-------|-----|
| 担当大学 | 武蔵野美術大学 | | | |
| 講 師 | □造形学部版画研究室（2023年4月～グラフィックアーツ研究室） 高浜利也教授、所彰宏助教、田中千里（学部4年生） □造形学部教職課程研究室 大坪圭輔教授 | | | |
| 対 象 | 中学校美術科・高等学校芸術科（美術）担当教員等 | 定 員 | 参集 | 30名 |
| | | | オンライン | 0名 |

| ＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容 | |
|--------------------|--|
| テーマ | 解き放たれた絵画 / ミニアートブックの制作 |
| 研修内容の概要 | <p>一般的にアーティストが本の形状や流通形態を利用して、自身の作品として制作した本をアートブック、あるいはアーティストブックと呼ぶ。アートブックは、内容的には絵画をはじめとするファインアート領域を主体としながらも、本に仕立てる作業工程や複数性の活用及び流通という点ではデザインの領域に属するという二面性を持つ。具体的には、ZINEと呼ばれる安価な印刷方法と製本方法を用いたものは、効果的に作品表現を社会に発信するための新たな複製メディア表現として、美術大学での版画教育や、アーティストの制作現場などで急速な広がりを見せている。そもそも版画は印刷技術を土台とする複数性を持つ絵画表現と定義できるが、すでにデジタルプリントやリソグラフのような印刷機器を用いた表現も版画表現と認知されて久しい。すなわち、アートブックの複数性は、造形表現によるコミュニケーションの可能性を広げているとも言える。</p> <p>また、一つの画面であるところの絵画的空間に充実や深まり、多様性を追求してきた従来 of 絵画表現に対して、アートブックの連続する画面による表現は、まさに「解き放たれた絵画」と呼ぶにふさわしいと考えられる。本の構造を活かしたページごとのイメージの重なりは、動画とは違ったデジタル表現におけるレイヤーにより近く、ゲームのステージのような感覚に近い。</p> <p>これらのアートブックの特性を学習指導要領が示す学習の内容として整理するならば、「感じ取ったことや考えたことを基に絵画などに表現する活動」と「伝える、使うなどの目的や条件を考えたデザインになどに表現する活動」の両面を備えたものと説明することができるだろう。</p> <p>本研修では進行時間の都合上、版画を自ら描いた絵（ドローイング）に変更したうえで、それを同一サイズの複数のピースに任意にカットし、それらに向かい合うページとして自由に組み合わせ、綴じて本に仕立てる。その制作を通して、ファインアート（絵画）とデザイン（ブックアート）の両方の領域を一つの課題の中で体験できる新しい表現と、その学習で必要な発想や構想に関する資質・能力である「思考力、判断力、表現力等」の育成を考えることになる。すなわち、単一な画面としての絵画のイメージが、ページによって再構成され、本という形に変換されたうえで、社会に解き放たれることを体験的に考える。</p> |
| | <p>{学習指導要領との関連}</p> <p>中学校美術科：A表現(1)ア(ア), イ(ア)(イ), 〔共通事項〕(1)アイ</p> <p>高等学校芸術科（美術）：美術Ⅰ～Ⅲ A表現(1)絵画・彫刻ア(ア)(イ), イ(ア)(イ), (2)デザイン ア(ア)(イ), イ(ア)(イ), 〔共通事項〕(1)アイ</p> <p>中学校美術における「絵や彫刻などに表現する活動」と「デザインや工芸などに表現する活動」, 高等学校芸術科美術における「絵画・彫刻」と「デザイン」は、ともにその「思考力、判断力、表現力等」には異なる発想や構想が設定されることになるが、ここでは、あらたな表現としてのアーティストブックによって、両方の思考方法について考察を深め、これからの指導のあり方を考えることになる。</p> |

| | | | |
|---------|---|-----------------------------|---------|
| 内容と方法 | <div>□アートブックについての理解と鑑賞</div> <div>□ミニアートブックの制作</div> <div> ドローイングとして自由に絵を描く → 任意にカットし、向かい合うページを組み合わせる</div> <div> → ページを綴じて本に仕立てる（ファインアート→デザイン・無線綴じの造本体験）</div> <div>□制作後の鑑賞と討議</div> | | |
| 到達目標 | <div>①アートブックの造形表現としての特性について理解する。</div> <div>②アートブックの制作を通して、その美術教育としての意味や価値について考察を深める。</div> <div>③造本技術などについての知識や技法を身に付ける。</div> <div>④新たな題材開発について、「思考力、判断力、表現力等」を中心にして検討し共有する。</div> | | |
| スケジュール | 09:30～11:45 | 開講式、全体研修、理論研修（教科別：文化庁による進行） | オンライン配信 |
| | 11:45～13:00 | 昼休み | |
| | 13:00～13:30 | 1. オリエンテーション講義 | 講義 |
| | | ・アートブックとは ・各種アートブックの鑑賞 | 鑑賞 |
| | 13:30～15:10 | 2. ミニアートブックの制作 | 各自作業 |
| | | ・ドローイング制作 ・カッティング ・製本 | |
| | 15:10～15:30 | 3. 制作後の鑑賞、講評 | グループワーク |
| | 15:30～15:45 | 4. まとめ、感想発表、意見交換 | 討議 |
| | 15:45～16:00 | 学習指導要領との関連・題材としての展開の可能性(大坪) | 講義 |
| | 16:20～16:40 | 全体講評（教科別：文化庁による進行） | オンライン配信 |
| 教材・持ち物等 | <div>【大学 準備】・A3画用紙(枠線印刷済み)白、クリーム・描画材(マーカー，ポスカ，色鉛筆，クレヨン等)</div> <div>・寒冷紗(8×3cm)・製本用ボンド・カッター・小筆・小皿・クリップ(大型目玉クリップ)</div> <div>・カッターマット・ドライヤー・延長コード・新聞紙（養生用）・50cm直定規</div> <div>・素材(古雑誌や展覧会チラシ、DM、パンフレット類等不要印刷物)</div> <div>【受講者準備】・上記以外で自分で使いたい描画材料ある場合は持参。</div> <div>（水で溶く絵の具などは乾燥時間の関係で不可）</div> | | |
| 特記事項 | <div>○事前・事後課題の有無：無</div> <div>○資料の配布方法：無</div> <div>○受講する上での環境条件等：無</div> | | |

中高美4

2022年度 芸術系教科担当教員等 全国研修会 テーマ別研修の内容
中学校美術科・高等学校芸術科（美術） 分科会 【実施日】令和4年12月15日

| | | | | |
|------|---|-----|-------|-----|
| 担当大学 | 金沢美術工芸大学 | | | |
| 講 師 | 大森 啓（金沢美術工芸大学・教授） （進行：桑村佐和子（金沢美術工芸大学）） | | | |
| 対 象 | 中学校美術科・高等学校芸術科（美術）担当教員等 | 定 員 | 参集 | 20名 |
| | | | オンライン | 0名 |

| ＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容 | | | |
|--------------------|--|-----------------------------|---------|
| テーマ | 平面なのに立体？パズルで考える | | |
| 研修内容の概要 | 本研修では「美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う」ことに重点を置いた授業の展開について考える。文中の「喜び」「感性」「創造」「情操」等の根源にあるのは「不思議や違和感への気付き」「発見の興奮」「実現の達成感」といった大小様々な心の振幅であると考えられるだろう。その心の揺れを促すため、現在自明のこととして扱われている「絵画（平面）上で立体を表現する（できる）」ことの不思議さや、その表現に触れたときの喜びに光を当て、「当たり前ではない」ことに気付く感性と「新たな可能性」を探究する創造力を培う授業展開を考える。 | | |
| | {学習指導要領との関連} 中学校美術科：A表現(1)ア(ア) (2)ア(ア)(イ) B鑑賞 (1) イ(ア)(イ) 〔共通事項〕(1)アイ 高等学校芸術科（美術）：A表現(1)ア(ア)(イ) イ(ア)(イ) B鑑賞(1)イ(ア)(イ) 〔共通事項〕(1)アイ | | |
| 内容と方法 | ①レクチャーを通して（絵を描くことに慣れている人ほど忘れがちな）「絵画（平面）上で立体を表現する（できる）」ことの不思議さを再確認・共有する。 ②中学校美術で取り組まれている「等角投影図による立体的な表現」の応用として、描かれた立体をバラバラに切り離し、パズル遊びへと展開する。 ③本課題が持つ「描写・思考・遊戯」の3要素を意識し、学年や発達段階、また個人の興味を想定した展開や新たな遊び方を考える。 ④授業展開のプレゼンと振り返りを行う。 | | |
| 到達目標 | 参加者（教員）自身が美術（今回は特に絵画表現）の不思議さに改めて気付き、驚き、喜べる。 具体的な生徒像を想定して、それぞれの学校の実態に合わせ得た題材設定を想像できる。 社会全体の豊かな生き方が日常の些細な発見や工夫の喜びに根ざすことと、その醸成に教科としての「美術」が資することを再認識する。 | | |
| スケジュール | 09:30～11:45 | 開講式、全体研修、理論研修（教科別：文化庁による進行） | オンライン配信 |
| | 13:00～13:10 | 研修前の操作確認・オリエンテーション | リアルタイム |
| | 13:10～13:40 | 講義 | リアルタイム |
| | 13:40～14:30 | 演習（パズル制作） | 各自作業 |
| | 14:30～15:00 | 演習（グループディスカッション） | グループワーク |
| | 15:00～15:10 | 休憩 | リアルタイム |
| | 15:10～15:40 | 発表（個人・グループ） | リアルタイム |
| | 15:40～16:00 | 全体の振り返り | リアルタイム |
| | 16:20～16:40 | 全体講評（教科別：文化庁による進行） | オンライン配信 |
| 教材・持ち物等 | 事前に、準備してほしい道具、材料等をお知らせします。特別な道具等は必要ありません。 | | |
| 特記事項 | ○事前・事後課題の有無：特にありません。 ○資料の配布方法： 研修会専用ホームページよりダウンロード ○受講する上での環境条件等： | | |

| | | | | |
|------|--|-----|-------|-----|
| 担当大学 | 京都市立芸術大学 | | | |
| 講 師 | 谷内春子（京都市立芸術大学美術学部美術科日本画専攻 講師） 飯田真人（京都市立芸術大学美術学部共通教育 教授） | | | |
| 対 象 | 中学校美術科・高等学校芸術科（美術）担当教員等 | 定 員 | 参集 | 30名 |
| | | | オンライン | 0名 |

| ＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容 | | | | |
|--------------------|---|-----------------------------|--|---------|
| テーマ | 日本画鑑賞の授業づくり～材料や技法から思考する鑑賞活動～ | | | |
| 研修内容の概要 | 各学校で表現と鑑賞の指導を関連付けた授業や鑑賞の充実に向けた実践が多く行われるようになりました。また、高等学校の内容にも〔共通事項〕が加わり、より一層の表現と鑑賞の指導を関連付けた授業づくりが求められています。一方で画像などの図版による鑑賞が多く、作品の作風や技法などが伝わりにくい面もあります。そこで、材料や技法に直接触れながら思考する実感的な鑑賞活動ができる授業づくりを考えていきたいと思います。 | | | |
| | [学習指導要領との関連] 中学校美術科：B鑑賞（１）ア(ア)、イ(イ)、〔共通事項〕（１）アイ 高等学校芸術科（美術）：B鑑賞（１）ア(ア)、イ(イ)、〔共通事項〕（１）アイ | | | |
| 内容と方法 | 古典から現代まで多様な日本画の作品の紹介、岩絵具や紙、箔をはじめ日本画に関わる材料や技法などについて、実際の作品をもとにわかりやすく解説します。 また、日本画の特徴ある材料や技法の見本（実際の材料で描かれた小さなパネルを数種類配布）を使って、日本画の美術作品との関連を基にした鑑賞の教材開発や、生徒が実際に材料に触れながら見方や感じ方が深められるような題材開発などをICT機器を活用し、受講者の方にそれぞれで考えてもらいます。 最後に、みなさんが作成したものを発表し、意見交流をします。 | | | |
| 到達目標 | 生徒が感覚を通して日本画に触れ、実感的な理解を深められる鑑賞の授業が行えるようにする。 | | | |
| スケジュール | 09:30～11:45 | 開講式、全体研修、理論研修（教科別：文化庁による進行） | | オンライン配信 |
| | 13:00～13:10 | オリエンテーション | | リアルタイム |
| | 13:10～13:40 | 「鑑賞活動の現状と課題について」（飯田） | | 講義 |
| | 13:40～14:20 | 「日本画表現に触れる～作品・材料・技法」（谷内） | | 講義 |
| | 14:20～14:30 | 休憩 | | |
| | 14:30～15:30 | 「鑑賞の授業づくり」（谷内・飯田） | | 各自作業 |
| | 15:30～16:10 | 発表・交流　まとめ（谷内・飯田） | | グループワーク |
| | 16:20～16:40 | 全体講評（教科別：文化庁による進行） | | オンライン配信 |
| 教材・持ち物等 | Wi-Fiに接続可能なタブレット端末またはノート型パソコン 各学校で使用している教科書または資料集 | | | |
| 特記事項 | なし | | | |

中高美工1

2022年度 芸術系教科担当教員等 全国研修会 テーマ別研修の内容
中学校美術科・高等学校芸術科（工芸） 分科会 【実施日】令和4年12月15日

| | | | | |
|------|---------------------------|-----|-------|-----|
| 担当大学 | 秋田公立美術大学 | | | |
| 講 師 | 秋田公立美術大学 美術教育センター 教授 尾澤 勇 | | | |
| 対 象 | 中学校美術科・高等学校芸術科（工芸）担当教員等 | 定 員 | 参集 | 0名 |
| | | | オンライン | 15名 |

| ＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容 | | | | |
|--------------------|---|-----------------------------|--|---------|
| テーマ | 「錫による、技法・表現の可能性　―鍛金皿の制作を通して―」 | | | |
| 研修内容の概要 | <p>錫板を用いて、鍛金技法により皿等の制作を行う。錫は、金鎚などで加工しても加工硬化せず、焼き鈍し工程を経ることがなく、変形加工を続けることができる。焼き鈍し後の希硫酸などによる酸化皮膜除去もいらない。木臼や砂袋に木槌などで打ち込むことにより、器状にすることが容易で、鍛金に必要な当金などの専門の道具が無くても、プラスチックや木の当て道具を工夫することで、鍛金の皿や器まで制作することができる。上品な銀色で、鎚目や表面のテクスチャーも工夫しだいで様々に表現することができる。「錫」は魅力ある工芸材料であり、中学校や高等学校の生徒に使う目的や条件などを基に、使用する者の立場や生活や社会の中での使用も考えながら、自己への思いや他者への願いを実現することのできる題材に発展させることができる。</p> | | | |
| | <p>[学習指導要領との関連]</p> <p>中学校美術科：A表現(1)イ(ウ)、(2)ア(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(イ)、イ(ア)(イ)、〔共通事項〕(1)アイ</p> <p>高等学校芸術科（工芸）：A表現(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、(2)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、B鑑賞ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、〔共通事項〕(1)アイ</p> | | | |
| 内容と方法 | <p>①使用用途を考え主題を生成し発想・構想を行い、錫板を無駄なく使用し、皿や器の形状を考え材料取り（野書き線を描く）を行う。（皿や器の外形はあまり鋭角状な図案は避ける。）</p> <p>②錫板に外形図案を写す。</p> <p>③金切鋏（万能鋏）や糸鋸で切り抜き、外形の端面を鑢でバリを取り滑らかにする。</p> <p>④砂袋や古雑誌などを敷き、その上から木槌やプラスチックハンマーなどで膨らみをつける。</p> <p>⑤金床や様々な形状の当金（木・プラスチック）などを敷き金鎚でならし、鎚目や装飾模様をつけて完成に近づける。</p> <p>⑥耐水ペーパーで端面を研磨したり端打ち等を施したりし、全体にコンパウンドを付けて研磨して完成する。</p> <p>⑦受講教員同士でこの課題の授業への応用に対して、ディスカッションする。</p> | | | |
| 到達目標 | 錫板を用いた鍛金の皿等を完成し、実際に授業に展開するための指導上の注意点等を確認し、授業化の視点を深めることができる。 | | | |
| スケジュール | 09:30～11:45 | 開講式、全体研修、理論研修（教科別：文化庁による進行） | | オンライン配信 |
| | 13:00～13:30 | 研修前の操作確認・オリエンテーション | | リアルタイム |
| | 13:30～13:45 | アイデアスケッチを行い、発想や構想をし、材料に野書く。 | | 各自作業 |
| | 13:45～14:30 | 切り抜き、膨らまし作業を行う。 | | 各自作業 |
| | 14:30～14:40 | 休憩 | | |
| | 14:40～15:15 | 金鎚によるならし、紋様付け。 | | 各自作業 |
| | 15:15～15:45 | 切削、研磨等仕上げ、感想用紙を記入する。 | | 各自作業 |
| | 15:45～16:00 | 作品講評（受講教員同士のディスカッション）及び振り返り | | グループワーク |
| | 16:20～16:40 | 全体講評（教科別：文化庁による進行） | | オンライン配信 |
| 教材・持ち物等 | <p>教材（送付）：錫板2枚、錫板ボウル打ち台凹型、錫板ボウル打ち台凸型、感想用紙</p> <p>各自の持ち物：アンビル（金床・学校に一つはあると思う）、金鎚（片手ハンマーで代用可）、木槌（できれば鐘木槌、無ければ唐紙木槌又は両丸木槌で可）、しっかりした下敷き板、当金（あれば）、木台（あれば）、油ねんど（あれば工業用で硬いもの）又は砂袋（厚い雑誌で代用可能）、新聞紙（束）、養生テープ、カッティングマット、カッター、曲尺、金工ヤスリ、金切鋏（万能鋏で代用できる）、金工用糸鋸（あれば）、耐水ペーパー（百円均一でセットで売っているものでよい）、コンパウンド（百円均一のもので可）、軍手、ウエス（ぼろ布）、作業しやすい服装</p> | | | |
| 特記事項 | <p>○事前・事後課題の有無：無</p> <p>○資料の配布方法：　研修会専用ホームページよりダウンロード</p> <p>○受講する上での環境条件等：各自作業できる部屋で、作業着、軍手などを着用し安全に作業できる環境</p> | | | |

中高美工 2

2022年度 芸術系教科担当教員等 全国研修会 テーマ別研修の内容
中学校美術科・高等学校芸術科（工芸） 分科会 【実施日】令和4年12月15日

| | | | |
|------|---|-----|----------|
| 担当大学 | 東京藝術大学 | | |
| 講 師 | 青木宏憧（美術学部工芸科漆芸 准教授） 渡邊五大（美術学部芸術学科 准教授） 佐々木 岳人（美術学部工芸科漆芸研究室 非常勤講師） 新井寛生（美術学部工芸科漆芸 教育研究助手） | | |
| 対 象 | 中学校美術科・高等学校芸術科（工芸）担当教員等 | 定 員 | 参集 20名 |
| | | | オンライン 0名 |

| ＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容 | | | |
|--------------------|---|------------------------------|---------|
| テーマ | 漆芸 蒔絵技法 ～縄文時代から続く漆文化、日本の伝統技法「蒔絵」を通して漆を知る～ | | |
| 研修内容の概要 | 自分のロゴマークを考えて頂き蒔絵技法で表現する内容です。蒔絵とは漆で絵を描き、硬化しないうちに金属粉を蒔き付け定着させる技法です。水戸黄門の葵の御紋の印籠のような金と黒の2色の模様になります。 漆は、古くは縄文時代から続く日本人の生活に根付いた文化です。蒔絵の体験を通して、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技能などについて考えたり、生活や社会の中の工芸の働きや工芸の伝統と文化について考えたりして見方や感じ方を深めます。また、伝統工芸のよさや特徴などを知り、今後の授業改善についても考えます。 | | |
| | [学習指導要領との関連] 中学校美術科：A表現(1)イ、(2)ア B鑑賞(1)ア(イ)、イ〔共通事項〕(1)ア、イ 高等学校芸術科（工芸Ⅰ）：A表現(1)ア(ア)(イ)、B鑑賞(1)鑑賞ア(イ)、イ(イ)〔共通事項〕(1)ア、イ | | |
| 内容と方法 | 本研修では、漆芸に精通した講師による指導のもと、大学のリソースを活用して蒔絵技法を学びながら体験し、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わることにについて考えたり、生活や社会の中の工芸の働きや工芸の伝統と文化について考えたりして、授業づくりにつながる視点を学びます。 漆液は塗料と接着剤の役割があります。 今回は漆の持つ接着力を活かし金粉を固着させる技法を行います。12.7cm角の黒漆パネルを用意し、筆などで自身のロゴマークを漆で描いてもらい、硬化しないうちに金粉をまきつけます。考えてきたアイデアによってはマスキングテープを切り抜いて養生をしてから漆を塗ってもよいでしょう。漆は硬化するのに時間がかかります。金粉を蒔き付けた状態で箱に入れ持って帰ってもらい3、4日置けば硬化するので完成です。 <u>漆は皮膚につくとかぶれます。扱いには十分注意しますがご理解のほど、よろしくお願いいたします。</u> | | |
| 到達目標 | ・漆芸に関する知識や技術を活かして、生活や社会の中の工芸の働きや工芸の伝統と文化について考え表現や鑑賞の活動を工夫し授業改善につなげます。 ・授業改善に向けて生徒の興味や関心を高めるための視点や方法を考察できるようにします。 当日は、金粉を蒔きつけるまでを目標とします。 | | |
| スケジュール | 09:30～11:45 | 開講式、全体研修、理論研修（教科別：文化庁による進行） | オンライン配信 |
| | 13:00～13:15 | 講師あいさつ、体験技法説明 | リアルタイム |
| | 13:15～14:00 | 図案チェック→置目取り（図案を転写すること）の説明→置目 | リアルタイム |
| | 14:00～15:00 | 地塗り→金蒔き→完成 | リアルタイム |
| | 15:00～15:40 | 体験した感想をききながら、講師による漆の説明 | リアルタイム |
| | 15:40～16:00 | 片付け、解散 | リアルタイム |
| | 16:20～16:40 | 全体講評（教科別：文化庁による進行） | オンライン配信 |
| 教材・持ち物等 | 筆記用具、ロゴマークのデザイン画 | | |
| 特記事項 | ○事前・事後課題の有無： 有 自分のロゴマークを考えてきてもらう（12.7cm角に入る大きさ） ○資料の配布方法： 研修会専用ホームページよりダウンロード ○受講する上での環境条件等：漆は皮膚につくと被れますので、皮膚が出ない洋服でご参加ください。 | | |

中高美工3

2022年度 芸術系教科担当教員等 全国研修会 テーマ別研修の内容
中学校美術科・高等学校芸術科（工芸） 分科会 【実施日】令和4年12月15日

| | | | | |
|------|---|-----|-------|-----|
| 担当大学 | 沖縄県立芸術大学 | | | |
| 講 師 | 山田聡（沖縄県立芸術大学 美術工芸学部 工芸専攻 教授） 島袋克史（沖縄県立芸術大学 美術工芸学部 工芸専攻 講師） | | | |
| 対 象 | 中学校美術科・高等学校芸術科（工芸）担当教員等 | 定 員 | 参集 | 10名 |
| | | | オンライン | 0名 |

| ＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容 | | | |
|--------------------|---|-----------------------------|---------|
| テーマ | 簡易窯の築窯と焼成方法（低下度釉を用いた焼物） | | |
| 研修内容の概要 | 本研修の概略としては、耐火煉瓦を用いた簡易窯の作成方法と焼成方法を紹介する。短時間の研修のため、予め実施者（大学）が用意した小型の器に釉彩を施し焼成を行う。 今回の研修では、受講者は「表現」においての制作方法を踏まえた、それぞれの材料の特性や使い方、それに必要な用具の扱い方や技法などを把握し、また、従来の様々な材料や技法、道具とともに、現代の素材や器材などの特徴をとらえ、制作に生かすことができるような指導が行えることを主眼としている。さらに、「鑑賞」においても、受講者自身が焼成を行い、陶芸の成り立ちを体感し、その美しさと機能性との調和などを考えることで見方や感じ方が深まり、現場での指導に寄与することも主眼としている。 | | |
| | 〔学習指導要領との関連〕 中学校美術科：「A 表現」（1）イ（2）ア(ア)(イ)「B 鑑賞」（1）ア(イ)、イ(ア)(イ)〔共通事項〕（1）ア、イ 高等学校芸術科（工芸Ⅰ、Ⅱ）：「A 表現」（1）ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)「B 鑑賞」（1）ア(ア)、イ(ア)(イ)〔共通事項〕（1）ア、イ | | |
| 内容と方法 | 1. 導入：陶磁器の制作工程の講義を行い、低下度釉の特徴や使用方法を伝える。 2. 制作：予め用意した器物に低下度釉を施釉。 3. 簡易窯の築窯工程の紹介を経て、器物の焼成体験を行う。 4. 焼成後の作品を観察し、陶磁器の熱による物理的変化と美的変化を解説し、鑑賞の要点をおさえる。さらに、受講者と講師で意見交換を行い、現場での活用方法を検討する。 | | |
| 到達目標 | ・陶磁器の制作工程を理解する ・焼成に際して危険性を把握する ・陶磁器の熱による物理的変化の理解と美的な現象を理解する | | |
| スケジュール | 09:30～11:45 | 開講式、全体研修、理論研修（教科別：文化庁による進行） | オンライン配信 |
| | | 昼食、作業着に着替える | |
| | 13:00～13:10 | 講師紹介、研修内容説明 | 対面 |
| | 13:10～13:40 | 研修内容に沿った講義 | 対面 |
| | 13:40～14:10 | 器物に釉彩（施釉） | 各自作業 |
| | | 休憩（10分） | |
| | 14:20～15:30 | 築窯（解説）、焼成体験 | グループワーク |
| | 15:35～15:55 | 焼成後解説、意見交換 | グループワーク |
| | 15:55～16:20 | 全体講評準備 | |
| | 16:20～16:40 | 全体講評（教科別：文化庁による進行） | オンライン配信 |
| 教材・持ち物等 | 作業着、作業帽子、作業靴（スニーカーなど）、ハンドタオル2枚 | | |
| 特記事項 | ○事前・事後課題の有無：無し ○資料の配布方法：当日配布 ○受講する上での環境条件等：対面で行う | | |

高書 1

2022年度 芸術系教科担当教員等 全国研修会 テーマ別研修の内容
高等学校芸術科（書道） 分科会 【実施日】令和4年12月15日

| | | | | |
|------|---|-----|-------|-----|
| 担当大学 | 東京学芸大学 | | | |
| 講 師 | 加藤泰弘（東京学芸大学教授） 鍋島稲子（台東区立書道博物館主任研究員） 加藤眞太郎（愛知県立松蔭高等学校教諭） | | | |
| 対 象 | 高等学校芸術科（書道）担当教員等 | 定 員 | 参集 | 40名 |
| | | | オンライン | 0名 |

| ＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容 | | | |
|--------------------|--|-------------------------------|-------------|
| テーマ | 書道教育における鑑賞の授業の工夫　ー知的財産権を踏まえた鑑賞指導の在り方ー | | |
| 研修内容の概要 | 美術館・博物館（台東区立書道博物館）での展示品の鑑賞、学芸員による作品解説・知的財産権に関わる講義、現職教員による鑑賞の授業実践報告を通して、書道教育における鑑賞の授業の工夫について理解を深める。 | | |
| | [学習指導要領との関連] 高等学校芸術科（書道）：B鑑賞(1)鑑賞 ア(ア)(イ) イ(ア)(イ)(ウ)(エ)、〔共通事項〕(1)ア イ、「内容の取扱い」(5)(9)(10)(11) | | |
| 内容と方法 | 1、台東区立書道博物館における展示作品の鑑賞、学芸員による解説 2、学芸員の視点からの知的財産権を踏まえた鑑賞の授業についての講義 3、現職教員による鑑賞の授業実践報告、研究協議 4、教科調査官による指導・助言 | | |
| 到達目標 | 新学習指導要領の趣旨を理解するとともに、知的財産権に配慮した鑑賞の授業を工夫できるようにする。 | | |
| スケジュール | 09:30～11:45 | 開講式、全体研修、理論研修 | オンライン配信 |
| | | | （東京藝術大にて受講） |
| | | ＜昼休憩の時間に昼食及び移動（東京藝術大学→書道博物館）＞ | |
| | 13:00～13:10 | 研修前のオリエンテーション | リアルタイム |
| | 13:10～13:50 | 台東区立書道博物館での展示作品の鑑賞、学芸員の解説 | リアルタイム |
| | 13:50～14:10 | 休憩・移動（書道博物館→東京藝術大学） | |
| | 14:10～14:35 | 学芸員による知的財産権を踏まえた鑑賞の授業についての講義 | リアルタイム |
| | 14:35～15:25 | 現職教員による鑑賞の授業実践報告 | リアルタイム |
| | 15:25～15:35 | 休憩 | |
| | 15:35～16:20 | 研究協議 | リアルタイム |
| | 16:20～16:40 | 全体講評、閉講式 | リアルタイム |
| 教材・持ち物等 | ・事前配付資料 ・高等学校学習指導要領解説 芸術編（各自の必要に応じて） ・作品鑑賞に適した筆記具・マスク・布手袋等 | | |
| 特記事項 | ・事前・事後課題の有無：　無 ・資料の配布方法：　研修会専用ホームページよりダウンロード（必要に応じて各自で印刷・持参） ・受講する上での環境条件等：　無 | | |